

INFORMATION

インフォメーション・ナウ

NOW



ごみを減らし、資源リサイクルを進める地域のリーダー 廃棄物減量等推進員が各地域で活躍

市では、ごみの減量や資源リサイクルを各地域の特色を生かして進めるため行政と地域とのパイプ役として、平成8年度から、狭山市廃棄物減量等推進員制度」を実施しています。6月1日現在、各地区自治会から推薦された294名の推進員が、集積所の調査やごみに対する意識調査を通して、市民の声を行政につなぎ、ごみに関する地域のリーダーとして活躍しています。

廃棄物減量等推進員は、地域と行政のパイプ役
最近、自治会が発行している広報にごみの分別や減量に関する記事を掲載する地区が増えてきました。また、市の出前講座を利用して「ごみを減らしてリサイクルすること」をテーマに学習会を開いている地区も

あります。このよつなごときに地域と行政とのパイプ役として推進員が活躍しています。これらも推進員と行政との連携による啓発事業の一つです。また、狭山台団地では、1街区に続き3街区でも、粗入ごみなどが外部から持ち込まれるのを防ぐため、公団、自治会、推進員、市の4者が

協議を重ね、従来の集積所を閉鎖して各棟ごとに集積所を新設しました。このよつなごときにも、ごみの分別徹底や指定集積所への排出などの呼びかけ、変更後の排出状況を調査するための立ち会いにも推進員が協力しています。

地域の特性を生かした効果的な啓発活動を実施

推進員と行政担当者の啓発打ち合わせ会が6月29日の人間地区をはじめ、7月中旬に各地区で開催されます。打ち合わせ会場では、ごみに関する率直な意見や要望が、推進員と行政担当者との間で交わされ、話し合いの結果をもとに重点テーマを決めています。啓発を進めるにあたっては、地域の皆さん、推進員、行政が連携をとり、より効果的な啓発を行えるよつ心がけています。

7月は、ペットボトル排出状況調査を行います。



ペットボトルの集積所調査と啓発活動

4月から、市内全域でペットボトルの収集が始まりました。しかし、キャップをつけたままであったり、つぶさずに出されたり、まだ排出のルールが守られていないものが多く見られます。そこで、7月から推進員によるペットボトル排出状況調査を開始します。調査結果は、ペットボトルの正しい排出を市民の皆さんにお知らせする際の基礎資料とします。



4月19日に行われた委嘱状交付式



ごみゼロの日に店頭でアンケートを実施、ごみの減量呼びかけました

問い合わせ
ごみ減量・資源リサイクル推進チームへ内線36331